

第50回 令和4年

新潟県指定無形民俗文化財

# 三条かぐら鑑賞会

日時 10月2日(日) 午前9時開演

会場 三条市中央公民館大ホール



主催 三条市・三条神楽保存会

後援 新潟県、(株)新潟日報社

(株)三條新聞社、(株)エヌ・シイ・ティ

ケンオー・ドットコム(合)

---

---

プログラム

---

---

- |   |         |            |        |
|---|---------|------------|--------|
| 1 | 開会のことば  | 三条神楽保存会会長  | 五十嵐 祐士 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長       | 滝沢 亮   |
| 3 | かぐらの演舞  | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行  |

午前の部 (9時15分～)

- |      |        |      |       |
|------|--------|------|-------|
| (1)  | 先稚児の舞  | 保 内  | 小布勢神社 |
| (2)  | 宮清の舞   | 塚野目  | 白山神社  |
| (3)  | 地久楽の舞  | 塚野目  | 白山神社  |
| (4)  | 榊の舞    | 大 崎  | 中山神社  |
| (5)  | 天孫降臨の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮   |
| (6)  | 三座返の舞  | 保 内  | 小布勢神社 |
| (7)  | 五穀散の舞  | 三 条  | 八幡宮   |
| (8)  | 久奈戸の舞  | 大 崎  | 中山神社  |
| (9)  | 小弓遊の舞  | 大 崎  | 中山神社  |
| (10) | 鎮護鉦の舞  | 保 内  | 小布勢神社 |
| (11) | 五穀捧の舞  | 田 島  | 諏訪神社  |
| (12) | 悪魔祓の舞  | 三 条  | 八幡宮   |
| (13) | 神勇の舞   | 保 内  | 小布勢神社 |
| (14) | 五ツ刀の舞  | 大 崎  | 中山神社  |
| (15) | 大鉦の舞   | 三 条  | 八幡宮   |
| (16) | 杵樹の舞   | 一ノ木戸 | 神明宮   |

午後の部 (13時30分～)

- |      |        |         |            |
|------|--------|---------|------------|
| (17) | 宮司舞    | 保 内     | 小布勢神社      |
| (18) | 乙女舞    | 保 内     | 小布勢神社      |
| (19) | 羽返の舞   | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (20) | 深山錦の舞  | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (21) | 鳥形の舞   | 三 条     | 八幡宮        |
| (22) | 四神の舞   | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (23) | 稲田宮の舞  | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (24) | 福神遊の舞  | 三 条     | 八幡宮        |
| (25) | 五行の舞   | 一ノ木戸    | 神明宮・田島諏訪神社 |
| (26) | 天川の舞   | 塚野目     | 白山神社       |
| (27) | 末広の舞   | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (28) | 太平楽の舞  | 大 崎     | 中山神社       |
| (29) | 花献の舞   | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (30) | 宝剣作の舞  | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (31) | 岩戸開の舞  | 一ノ木戸    | 神明宮        |
| (32) | 奉幣の舞   | 塚野目     | 白山神社       |
| 4    | 閉会のことば | 三条市市民部長 | 上原 勝善      |

## 1 先稚児の舞

保内 小布勢神社

神楽の最初に舞う稚児舞です。舞は二人のときと一人で舞うときとありますが、一人舞のことが多くあります。神々の大前で静かに祈りを捧げるものです。

春、夏、秋、冬の今様が楽屋で歌われます。今様とは、平安時代末の歌曲の総称です。

【囃子】先稚児拍子 【装束】天冠・狩衣 【採物】鈴・扇

## 2 宮清の舞

塚野目 白山神社

伶人一人で舞う。天照大神が須佐之男命すさのおのみことの乱行を怒り、天の岩戸におかくれになられたその時、天児屋根命あめのこやねのみことが大神のお出ましを願うための祭りを行うべく、先ず大神なきあとの不浄を清めようと修祓の行事を行ったということに由来する舞で、神楽殿、参拝の人々の罪、穢れを祓い清める意味のものです。

【囃子】三拍子 【装束】毛頭(小)・狩衣 【面】翁 【採物】大麻

## 3 地久楽の舞

塚野目 白山神社

天地長久を祝して天忍日命あめのおしひのみことが天岩戸の大前で、天地とともにみんなの安全を祈ったことに由来する舞です。

また、この舞は能狂言の「三番叟さんばそう」の装束で鈴をもって舞う形が、それに似ていることから、俗に「さんばさ」ともいわれています。

【囃子】大満  
【装束】大烏帽子・子大毛頭・金欄大狩衣・大口  
【面】悪魔祓面  
【採物】鈴



## 4 榊の舞

大崎 中山神社

稚児四人によって舞われる舞です。天孫降臨の折、猿田彦大神さるだひこおおかみは天孫の降臨の道すがら、榊をもって、悪神たちを打ち平げたという故実による舞です。

【囃子】榊拍子  
【装束】天冠・髪に蝶型・曲・青狩衣・紫袴  
【採物】榊

## 5 てんそんこうりん 天孫降臨の舞

### 一ノ木戸 神明 宮

瓊々杵命ににぎのみことが天照大神の神勅によって、雨鈿女命あめのうずめのみことらをひきいて高天原たかまがはらから豊葦原とよあしはらの瑞穂国に降臨された時、道祖神である猿田彦命さるだひこのみことがご先導申し上げる様子を演じたものです。

舞はまず、彦2人が舞殿の飾付をします。次いで、天児屋根命あめのこやねのみことが枝ぬさを奉持して拝殿を清めます。瓊々杵命ににぎのみことが笏を持ち、天忍日命あめのおしひのみこと・雨鈿女命を従えて登場し、天忍日命は大鉦の舞を舞い、雨鈿女命は榊の舞を舞います。終って、猿田彦命が登場して舞詞を交わしながら舞われ、一同は猿田彦命の先導で退場します。

【囃子】今様・大満・榊

## 6 さんざがえし 三座返の舞

### 保内 小布勢神社

神輿の渡御に先立ち、御神霊を神輿にお移しし、出発のとき神輿の前で舞い、無事にお帰りになるように祈る舞です。

神輿渡御の際は素面で舞いますが、宵祭りのときは面をつけます。

【囃子】大満

【装束】狩衣・差貫袴

【採物】鈴・扇



## 7 ごこくちらし 五穀散の舞

### 三条 八幡 宮



農業の神である倉稻魂命うがのみたまのみことが農夫に五穀の種を授ける舞で、倉稻魂命と農夫二人(彦)の三人によって舞われる。倉稻魂命は稻荷神社の祭神です。

【囃子】彦のみの時は「シヤギリ」、命の出ている時は「榊拍子」

【装束】命一立烏帽子又は風折れ烏帽子・金欄狩衣・切袴、彦一千早・立付袴・襷がけ

【面】命一翁、彦一彦面

【採物】命一三宝・鈴、彦一鍬・鎌

## 8 久奈戸の舞

伊邪那美尊<sup>いざなみのみこと</sup>が数々の神々をお生みなされ、最後に火の神をお生みになった時、大火傷を負われ、亡くられました。夫の伊邪那岐尊<sup>いざなぎのみこと</sup>が「黄泉国の私の所に来てはいけません」という伊邪那美尊の言葉を忘れ、見るに耐えない女神の姿をご覧になり、黄泉醜女<sup>よもつこめ</sup>に追われました。

この舞は、伊邪那岐尊が黄泉平坂まで逃げ、桃の枝を折り、実を投げて難をのがれた様子を模したものです。

- 【囃子】彦だけの時は「シヤギリ」、久奈戸神が加わると「大満」
- 【装束】彦一毛頭・千早・立付袴、久奈戸神一大毛頭・大狩衣・大口
- 【面】彦一彦面、久奈戸神一悪魔掃面
- 【採物】彦一剣、久奈戸神一桃の枝又は榊の枝

### 大崎 中山神社



## 9 小弓遊の舞

天照大神<sup>あまてらすおおみかみ</sup>は中津国の平定のために、アメノワカヒコに「天波士弓<sup>あめのはじゆみ</sup>」と「天加久矢<sup>あめのかぐや</sup>」を授けられました。

この舞は、その弓矢を持って、天の岩戸の大前で姫神たちが、世の太平を祈り舞った故事による、四人の稚児舞です。

- 【囃子】小弓拍子
- 【装束】舟型烏帽子・狩衣・大口・襷
- 【採物】弓・矢

### 大崎 中山神社



## 10 鎮護鉾の舞



イザナギ・イザナミの二神が天の浮橋に立たれ、天の沼矛で滄海をかきまわし、矛を引きあげた時、矛先からしたたり落ちた潮がかたまってオノノコロ島に天の御柱立てられ、御柱を廻りながら夫婦の契りを結び、次々に日本の島々をお生みになったと伝えられています。

- 【囃子】大満
- 【装束】黒毛頭・千早・大口
- 【面】鎮護鉾面(阿吽)
- 【採物】短鉾云

### 保内 小布勢神社

## 1 1 <sup>ごこくささげ</sup> 五穀捧の舞

二人で舞います。ウブスナノカミをはじめ神々の加護によって、今年も茄穀豊穰。めでたく収穫も終わったので、神々に五穀の初穂を奉り、豊作のよろこびを感謝する舞です。

【囃子】シヤギリ

【装束】狩衣・切袴又は差貫通・風折烏帽子又は引立烏帽子

【採物】三宝・鈴

田 島 諏訪神社



## 1 2 <sup>あくまばらい</sup> 悪魔祓の舞



三 条 八 幡 宮

天孫の降臨に先立ち、フツヌシノミコトが中津国の荒ぶる神を打ちしずめるために努力されたことにちなんだ舞で、神刀の威力で邪気を祓い、世の中の安泰を祈るものです。

フツは、刀剣の鋭く物を立ち切る音の擬声語で、諸々の悪を刀剣で断ち切ることを象徴した舞です。

【囃子】悪魔祓拍子

【装束】金欄法被差袴毛頭（大）

【採物】剣

## 1 3 <sup>かみいさみ</sup> 神勇の舞

神の喜び舞われる姿を表現し、神の勇みを現わしたものとされている一人舞です。

湯立神事の際とくに舞われるしきたりになっています。

【囃子】大満

【装束】狩衣・切袴・黒毛頭

【面】奉幣面 【採物】剣・鈴

保 内 小布勢神社



## 1 4 <sup>いつつかたな</sup> 五ツ刀の舞

四神が剣をもって天地四方をかためる舞とされています。四神とは、青竜（東）・白虎（西）・朱雀（南）・玄武（北）の四方を守る神をいいます。「四神の舞」は稚児4人が、採り物を鉦で舞ますが、この「五ツ刀の舞」は剣で舞います。「地割」と呼称すると所もあります。

【囃子】大満 【装束】金冠 【採物】剣・鈴

大 崎 中山神社

## 15 おおぼこ 大鉾の舞

### 三 条 八 幡 宮

櫛石窓くしいしまどのかみ神が、天孫降臨に先立ち、思金おもいがみのかみ神、手力たちからおのかみ神と共に、中津国の荒ぶる神たちを鉾をもって鎮圧したことに由来するといわれる舞です。  
なおこの舞を「地鎮の舞」(又は「とこしずめの舞」)ともいいます。鉾の霊力を表徴するのがこの舞です。

【囃子】大満 【装束】大毛頭・金襴大狩衣・大口袴  
【面】悪魔祓面 【採物】大鉾

## 16 ぞうぎ 杵樹の舞

### 一ノ木戸 神 明 宮

二人で舞います。中津国の荒ぶる神たちを鎮めるべく、弓矢を持つ武甕槌命たけみがつちのみことが天下り、火の神かぐつちのかみ迦具土命と協力して中津国の安泰をはかったことにもとづく、天長地久四方泰平を祈る舞いです。

弓矢は武力による邪悪の平定を意味し、杵と飯しゃもじは、食を十分に与えて民の生活を豊かにすることをあらわしています。

【囃子】三拍子、しゃぎり 【装束】武甕槌命一立烏帽子・狩衣、迦具土命一彦姿  
【面】武甕槌命一杵樹面、迦具土命一彦面  
【採物】武甕槌命一弓・矢、迦具土命一杵・飯しゃもじ

## 17 ぐうじ 宮司舞

### 保 内 小布勢神社



神楽を奉納するに当たり、その日の舞に最初に舞われるものです。宮司自ら舞い、これにより神楽を捧げ、神の御霊をお慰め申すことを示します。

【囃子】宮司舞拍子 【装束】立烏帽子・狩衣・切袴  
【採物】榊・幣

## 18 おとめ 乙女舞

### 保 内 小布勢神社

4人の稚児舞です。神代より宮中で舞われてきたもので、乙女たちが大神の大前に、神心安かれと舞ったと伝えられています。

【囃子】乙女拍子  
【装束】天冠・狩衣・切袴  
【採物】榊



はがえし  
19 羽返の舞



一ノ木戸 神明宮

稚児4人で舞う。天岩戸の変の時、岩戸の前で羽根扇を両手に持ち、大神のおでましを一時も早くと、国土四神に、岩戸前に参集なされた神々が祈りを捧げられた事に由来する舞です。

【囃子】羽返拍子

【装束】天冠・白狩衣・青袴・曲玉

【採物】扇2本

みやまにしき  
20 深山錦の舞

伶人四人、稚児二人によって行われる舞です。

平維茂が信州戸隠山に紅葉見物に行ったとき、鬼神にあい、これを退治したという物語によるものです。

能の「紅葉狩」と同一の物語といわれています。

。

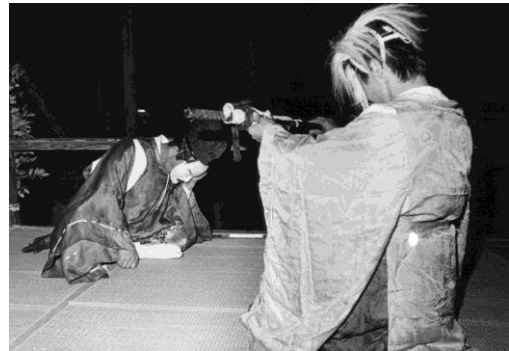
【囃子】中満 立ちまわり羽返拍子

【装束】惟茂一立烏帽子・狩衣・差貫、姫一女鬘・狩衣・差貫、槌命鬼神一大狩衣・大口、神使一宝剣作に同じ

【面】惟茂一将軍面、姫一深山錦面、鬼神一ハンニャ面、神使一白翁面

【採物】惟茂一弓・矢、姫一扇、鬼神一榊の枝、神使一劍、稚児一三宝・瓶子・土器

一ノ木戸 神明宮



とりかた  
21 鳥形の舞

三 条 八 幡 宮

天岩戸の変の折、思金の神の計により夜明けを告げる常世の長鳴鶏を鳴かしめられた。天照大神は岩戸の中にあつて、朝を告げる長鳴鶏が鳴き、神々が笑いさざめていることを不審に思われ、岩戸の扉を少し開けて外をのぞかれようとした時に、手力男の命が岩戸のすき間に手をかけ、扉を開き大神をお出し申し上げた。

この舞は、その故事にならい、常世の長鳴鶏を形どって舞われる舞で、動作には鶏の生態をそのまま写し出している所が多い。

【囃子】鳥形拍子

【装束】鶏形頭・毛頭・狩衣・差貫・脚絆

【面】翁 【採物】大麻



## 2 2 <sup>しじん</sup> 四神の舞

### 一ノ木戸 神明宮

稚児4人による舞で、葦原の中つ国を四神の鉾でかため、安泰を祈る意味の舞とされています。

四神とは、四の方角を守る神で、東は青竜、西は白虎、南は朱雀、北は玄武といい、それぞれの方角の守護にあたっています。

四神を描いた旗を四神旗といい、朝廷では、即位礼の時や元日朝賀の折に四神旗を鉾に結んで大極殿、紫宸殿の庭に立てられたこれを「四神鉾」といいます。

【囃子】四神拍手 【装束】舟型烏帽子・狩衣・大口・襷 【採物】鉾

## 2 3 <sup>いなだみや</sup> 稲田宮の舞

### 一ノ木戸 神明宮

伶人六人と稚児一人の舞です。

天照大神の弟、須佐之男命は乱暴者で、高天原から追放され出雲の国の簸の川上の鳥上の地にお降りになった。川上で足名椎、手名椎老夫婦が八人目の娘の櫛名田比売までも八俣大蛇に食べられるので、退治して欲しいと頼まれた。退治した後は、妻としてもらえる舞です。

又、大蛇の尾から出た太刀あまのむらくものつるぎ（天叢雲劍）を天照大神に献上し、三種の神器の一つである草薙劍といわれています。



【囃子】大満、大蛇拍子

【装束】翁一風折烏帽子・狩衣・切袴、媼一白髪・差貫袴・打掛、娘一天冠・稚児衣装、命一古代帽・法衣・差貫袴・白脚絆、大蛇一大毛頭・龍頭・金襴・大狩衣・金襴大口、彦一彦装束

【面】翁一足名椎面、媼一手名椎面、娘一なし、命一須佐之男面、大蛇一大蛇面、彦一彦面

【採物】翁一扇又は笏、媼一扇と鈴、娘一中啓又は扇、命一笏と巻物、大蛇一劍、小道具一樽・床机

## 2 4 <sup>ふくじんあそび</sup> 福神遊の舞

### 三条 八幡宮

恵比寿、大黒の舞です。互いに失敗を無言劇風からかい合いながら舞は進められ、最後に恵比寿が大きな鯛を釣りあげ、大黒も大いに協力し喜び合います。

恵比寿が大きな鯛をかかえて退場すると、大黒は拝観者に菓子を撒いて退出します。



【囃子】三拍子・大黒一人になった時は榊拍子

【装束】大黒一大黒頭巾・狩衣・奴袴 恵比寿一風折烏帽子又は侍烏帽子・狩衣・奴袴・白脚絆・禪

【面】大黒一大黒面 恵比寿一恵比寿面

【採物】大黒一槌・袋・扇子 恵比寿一釣竿・扇子

## 25 <sup>ごぎょう</sup>五行の舞

### 一ノ木戸 神明宮・田 島 諏訪神社

この舞は、他県では「国堅め」といって五色の幣をもって舞っていますが、三条では神代より五つの誓、即ち仁・義・礼・智・信、これを五つの宝珠に現わし、人倫の道を教え、天下太平、世の安泰を祈る舞だといわれています。

【囃子】五行拍子

【装束】伶人一女鬘・狩衣・口細袴、稚児一先細烏帽子・狩衣・差貫袴

【面】天川面 【採物】伶人一三宝・黄の宝珠・鈴・舞扇

## 26 <sup>あまがわ</sup>天川の舞

### 塚野目 白山神社

天の岩戸開きにあたって、舞の上手な神様であるアメノウズメノミコトが桶の上で舞い踊られた故事によるものです。

舞は、能の羽衣の天女の舞を模したものとされています。舞の装束は、平安時代の白拍子(遊芸を業とする女性)姿に類似していて、たくましい男性が、鈴と扇を優雅にあやつりながら若い女性の姿態で舞うむつかしい舞です。

【囃子】天川拍子 【装束】静烏帽子・女まげ・赤単・狩衣・奴袴 【採物】鈴・扇

## 27 <sup>すえひろ</sup>末広の舞

### 一ノ木戸 神明宮

稚児の四人舞です。伊勢の五十鈴の宮の大前で、千代に八千代に末広く、国栄えよと祈りをこめて舞われる舞です。

末広とは扇のことで、扇のその形から、次第に栄えてゆく意味をもつ「末広」という別名がつけられています。

国の弥栄と、氏子崇敬者の人等の幸が末広りになるように祈り舞うものです。

【難子】末広拍子 【装束】立烏帽子・狩衣・差貫袴 【採物】扇一本

## 28 <sup>たいへいらく</sup>太平楽の舞

### 大崎 中山神社

天の岩戸の変の時、<sup>いしこりどめのみこと</sup>岩凝姥命が天の金山の<sup>やたのかがみ</sup>鍬で八咫鏡を造り、その完成を祝ったという故実による舞です。

この舞は別名が多く、「鏡づくり」「盆舞」「日月」などの呼び方があります。

「鏡づくり」は、<sup>やたのかがみ</sup>八咫鏡を作ったということから、「盆舞」は、採物が盆であることから。「日月」は二枚の盆を日と月にみたててこの名があります。



【囃子】シヤギリ 【装束】毛頭・千早・立付 【面】彦面 【採物】丸盆二枚

## 29 かけん 花献の舞

### 一ノ木戸 神明宮



稚児4人舞です。時の花を神に捧げる意味のものと思われませんが、にぎのみこと 邇々かささ芸命を笠沙の岬にお迎えして、命の苦勞をおなぐさめ申したことに由来する舞であるとも伝わっています。

【囃子】花献拍子

【装束】立烏帽子又は天冠・狩衣・差貫袴

【採物】時の花の枝1人2本ずつ

## 30 ほうけんさく 宝剣作の舞

### 一ノ木戸 神明宮

三条小鍛冶宗近が時の天皇の命により、宝剣を作るにあたり、稻荷の大神の神助によって完成するというもので、三条では鍛冶舞とも呼ばれています。

【囃子】しゃぎり、大満、槌を打つ時は宝剣作の拍子

【装束】宗近一立烏帽子・狩衣・切袴・襷 相槌一舟型烏帽子・狩衣・立付袴・襷 神使一白毛頭・狩衣・差貫 稻荷一稻荷頭・大毛頭・狩衣・大口

【面】宗近一宗近面 相槌一彦面 神使一白翁面 稻荷一智王面

【採物】神使一劍 小道具一ふいご・金床・大槌・小槌・三宝



## 31 いわとびらき 岩戸開の舞

### 一ノ木戸 神明宮

すさのおのみこと 須佐之男命の乱行に恐れをなされたあまてらすおおみかみ 天照大神は、天の岩戸におかくれになり、天地が真暗になってしまいました。そのため邪神が立ち騒ぎ、禍が次々に発生し、困りぬいたやおよろず 八百万の神々が天の安河原に集まって協議された結果、あめのうずめのみこと 雨鈿女命が岩戸の前で舞われることとなりました。この舞の面白さに興じる騒々しい様子に、何事だろうと、そっと岩戸から覗き見をされた天照大神を、岩戸の扉のそばに隠れ立っておられたたちからのおのみこと 手力男命が岩戸を開き、外へお連れ申した由来によるもの。

【囃子】大満、三拍子 【装束】金らん法被・毛頭・差貫

【面】悪魔払面

【採物】大麻

## 3 2 奉幣の舞



### 塚野目 白山神社

天岩戸の変の折天香山の五百津真賢木  
 を根こぎにして、その下枝に白和幣と  
 青和幣をかけたれ、天兒屋根命が、天照  
 大神が岩戸からのお出ましを願う祝詞を  
 奉上げた故実に基づく舞です。

なお、この舞は岩戸開きの舞の最後に  
 舞われるものですが、これだけを取り出  
 し、その日の舞列の最後に舞われていま  
 す。

【囃子】羽返拍手 【装束】狩衣・切袴・立烏帽子  
 【面】奉幣面又は素面 【採物】鈴・幣

### 三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年(1811)には、三条(八幡宮)で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定 無形民俗文化財	三条神楽32舞の演目		
1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀散の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞